

令和8年度 授業改善推進プラン（全体）

学校名	豊島区立西巣鴨小学校
校長名	後藤 大輔

学校の教育目標

「元気 なかよし かしこい 西巣っ子」

学力に関する目指す児童像

- ・心身共に健康で、自らのよさを自覚し、社会に貢献しようとする子ども
- ・自分の友達も大切にし、豊かな人間関係と思いやりのある子ども
- ・自ら進んで考え、互いに学び合う、確かな学力がある子ども
- ・地域とのかかわりや学校の歴史・伝統・よさを大切にする、人間性豊かな子ども

授業改善推進プランの全体像

【 教育目標 】

「元気 なかよし かしこい 西巣っ子」

【 学力に関する目指す児童像 】

- ・心身共に健康で、自らのよさを自覚し、社会に貢献しようとする子ども
- ・自分も友達も大切にし、豊かな人間関係と思いやりがある子ども
- ・自ら進んで考え、互いに学び合う、確かな学力がある子ども
- ・地域との関わりや学校の歴史・伝統・よさを大切にする人間性豊かな子ども



主体的・対話的で深い学び

- ・体験活動の重視
- ・学習問題の設定と振り返り
- ・学習形態の工夫
- ・タブレットの活用

基礎・基本の定着

- ・学力の実態の把握
- ・自分の考えをもつための時間の確保
- ・読書タイムや読み聞かせ時間を設定し、読む力の向上を図る。
- ・タブレットパソコンを活用した学習タイムで基礎的な内容の定着を図る。

令和 8 年度 授業改善推進プラン（各教科）

I 国語科

目指す児童像を基にした国語科での育成したい資質・能力		
言葉を正確に理解し、適切に用いて自分の考えや思いを表現できる能力の育成		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	知っている言葉であっても、意味をよく理解していないことがある。	・平仮名を学習する際に言葉集めをし、言葉の意味を視覚的資料などで確認しながら語彙を増やす。
低	語彙が少なく、知っている言葉でも、言葉のもつ意味や正しい使い方についての理解が乏しいため、自分の考えをうまく表現することが難しい。	・音読、読書活動や読み聞かせを通して語彙を増やし、言葉の使い方を習得させる。 ・自分の思いや考えを友達や担任に伝える活動を設け、言語のもつよさを感じさせる。
中	基本的な読み書きを正しく行うことができる児童がは多いが、日常生活で活用する意識に差がある。 目的に応じて文章を書いたり、相手の話を聞き取った上で自分の意見を伝えたりすることが難しい。	・自分の考えをもてるようにめあてや発問を工夫する。 ・1時間の授業の中に、ペアやグループで協働的に学び合う時間を設ける。話し合う場面では、自分で考える時間を設け、それをもとに友達と話し合い活動ができるようにする。 ・日常的に文章を書く機会を増やし、書くことへの苦手意識や抵抗感を減らす。また、テーマを与え、テーマに対して自分の考えがもてるようにさせる。
高	他人と異なることや正解、不正解にとらわれて、自分の考えを表現することに抵抗感をもっている児童がいる。	・多様な意見が出るような話し合いの機会を増やしていく。意見の共通点や相違点を整理させながら話し合いを行わせる。 ・ICT 機器を活用し、友達がどのように表現しているのかをその場で確認できるようにして、表現力の向上に生かす。

2 社会科

目指す児童像を基にした社会科での育成したい資質・能力		
社会的事象の見方・考え方を広げ、自らの問いを追究しながら考えを深めることができる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	社会的事象について自ら問いをもち、複数の資料を根拠として考えを深めることに課題がある。	問いを生み出す発問や資料提示を工夫し、複数の資料を関連付けながら学習する指導を充実させる。
高	社会的事象を多面的・多角的に捉え、自ら設定した問いを追究しながら考えを深めることに課題がある。	社会とのつながりを意識した問いを設定し、根拠をもとに考えを交流し、再構築する学習活動を充実させる。

3 算数科

目指す児童像を基にした育成したい算数科での資質・能力		
基礎基本的な知識理解などの学力の育成。事象を数理的に捉えて、算数の問題を自ら見出し、自立的・共同的に解決する能力の育成。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	数や、足し算・引き算は知っているが、その意味理解に関しては不十分である。	視覚的な教材や、手での動作をたくさん経験させることで、学習内容の定着を図る。
低	基礎的基本的な計算力はある程度ついている。長さや水のかさ、時刻と時間の単位変換などの学習内容の定着、理解が低い。	具体物を用いて実物に触ったり、計測したりと、単位測定の経験をたくさんさせることで量感を養う。
中	基本的基本的な計算能力はある。既習内容を活用して問題を解決する能力は高くない。	授業の始め、朝学習の時間などを用いて、繰り返し練習を行うことで学習内容の定着を図る。具体物を用いたり、計測したりする活動を通して数量や形の感覚を養う。話し合い活動を積極的に取り入れていくことで問題解決能力を育成していく。
高	基礎的基本的な学力の定着が不十分な児童がいる。問題を多角的にとらえ、考えをより豊かにしていく必要がある。	授業の始め、朝学習の時間などを用いて、繰り返し練習を行うことで学習内容の定着を図る。具体物を用いたり ICT 機器を活用したりして数量や形の感覚を深めていく。問題解決を行わせる際に、めあてやポイントを考えさせてから活動に取り組ませる。また、様々な考えに触れられるように学び合いや話し合い活動の時間を十分に確保していく。

4 理科

目指す児童像を基にした理科での育成したい資質・能力		
体験活動を重視し、問題解決のための実験や観察をすることで児童が主体的に考え、学習を深めることができるようにする。観察・実験の記録や結果、考察の交流等において、タブレットを効果的に活用することができるようにする。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	観察・実験に意欲的に取り組める児童が多い。 既習事項や生活経験などを基に、根拠をもって予想することができる児童が少ない。 正しく結果を記録したり、結果から考えたことをまとめたり新たな疑問を見出したりすることができる児童が少ない。	事象提示を工夫し、問題を見出せるようにする。 前時までの学習や関連する既習事項、生活経験などを想起させてから、予想させる。 観察・実験の仕方を丁寧に確認し、視点をもたせる。結果を表や図、言葉で表すようにさせる。結果と考察の違いを指導する。話型を提示し、考察を書けるようにする。

高	観察・実験に意欲的に取り組める児童が多い。 既習事項や生活経験などを基に、根拠をもって予想することができない児童がいる。 考察時に結果を基に事象を多面的に分析したり、他の知識と結び付けて考えたりすることができない児童がいる。	事象提示を工夫し、問題を明確にし、前時までの学習や関連する既習事項、生活経験などを想起させてから、予想させる。 問題、仮説を常に意識して観察・実験をさせる。本時の問いに正対するように自分の言葉で考察させるようにする。 観察・実験の記録や結果、考察の交流等において、タブレットを効果的に活用することができるよう指導する。
---	---	--

5 生活科

目指す児童像を基にした生活科での育成したい資質・能力		
身近な人々、社会及び自然を自分との関わりで捉え、自分自身や自分の生活について考え、表現する能力の育成。		
学年	現在の状況	改善のための取組
スタート カリキュラム	教員が予め活動やルールを決めて児童に伝えることが多く、児童の思いや願いを活動やルールづくりに反映させたり、保育園や幼稚園での活動を生かしたりする機会が少なくなりがちであった。	余裕をもった予定を組み、児童の思いや願いの実現に向けた活動を行ったり、保育園や幼稚園での活動を生かしたりすることができるようにする。
低	自分が考えたことや感じたことを表現することに苦手意識をもつ児童が多い。	自ら考えたり観察したりする場面では、考える視点や観察する観点を明確にして指導し、自分の言葉で主体的に表現できるようにする。気付いたことを交流する機会や時間を増やす。

6 音楽科

目指す児童像を基にした音楽科での育成したい資質・能力		
音楽活動を楽しみ、友達と協働しながら、音楽を味わって聴いたり自分の思いを生かして表現したりする力		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	音楽を楽しみながら、表現や鑑賞の活動に意欲的に取り組む児童が多い。	幅広い活動に取り組む中で、音楽を形づくっている要素に気を付けながら基礎的な力を身に付け、友達との関わりから表現の発想を広げていくことができるようにする。
中	様々な学習に意欲的に取り組む児童が多い。表現したいという思いを、実際の音として表現する力を身に付ける必要がある。	題材を通して重点的に学ぶ要素を焦点化しながら、児童がどのように表現したいかという思いを大切にし、必要な技能はスモールステップで積み重ねて身に付けられるようにする。

高	表現することへの意欲が高まっている児童が増えているが、技能面やどのように表現するかについて思いをもつことにおいては、個人差がある。	既習事項を生かしながら学習を積み重ねるようにし、個々の様子を見取りながら、必要な技能を身に付けられるような学習方法や課題を工夫する。また、友達との関わりの中で音楽についての考えを深められるよう、課題設定の方法、ワークシート、表現や考えの交流の仕方などを工夫する。
---	---	---

7 図画工作科

目指す児童像を基にした図画工作科での育成したい資質・能力		
つくり出す喜びを味わい、造形的なよさや美しさに気付き、創造的に表現し、お互いを認め合える豊かな心		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	自分から進んで表現活動に取り組み、つくり出す喜びを味わうことができる。	学習意欲を活用し、楽しみながらもねらいを明確にし、つくる喜びを味わわせる。
中	楽しんで活動し、自分なりの創意工夫が見られるようになっている。	様々な材料に出合わせ、自分の見方や感じ方を広げられるようにする。
高	意欲的に活動はしているが、題材の深め方に個人差が出ている。	題材の合間に鑑賞の時間を取り入れたり、お互いのよさを認め合ったりし、自分らしい表現とは何かを考え、深められるようにする。

8 家庭科

目指す児童像を基にした家庭科での育成したい資質・能力		
体験活動を重視して児童が主体的に考えることができる学習問題を設定し、自ら考え、生活に生かせるように巢る。		
学年	現在の状況	改善のための取組
高	・生活経験の差があり、知識はあっても学んだことが授業内で終わってしまうことが多く、実生活にあまり結び付いていない。	体験的な学習を通して、自分の技能と知識を働かせ、物事を成し遂げた達成感を経験できるようにする。また、家庭とも連携し、得た自信を自分の生活に生かそうとする意欲・態度につなげる。

9 体育科

目指す児童像を基にした体育科での育成したい資質・能力		
自分やチームの現状を把握し、友達と協働しながら、課題解決に向けて主体的に取り組む力。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	多くの児童が、どの運動領域にも主体的に取り組むことができている。一方、規律やルールを守れない児童や、友達に指摘し合う児童がいる。	アイスブレイクや運動遊びを多く取り入れ、自分たちでルールを守る大切さに気付けるようにする。また、運動をお互いに見合う機会を設け、言葉かけの具体例を共有しながら、アドバイスし合えるようにする。

中	多くの児童が、どの運動領域にも主体的に取り組むことができている。一方、自分の課題に合った場や練習を選ぶことが出来ない児童がいる。	全体で課題の確認をした後、場を選ぶようにする。また、細かく場を分けることで、自分に合った場を選べるようにする。その際、ICTなどを活用し、視覚的に場を把握しやすいように工夫する。
高	多くの児童が、どの運動領域にも主体的に取り組むことができている。一方、自分やチームの課題に応じた具体的な解決策を見い出せられない児童がいる。	お互いを見合ったりアドバイスし合ったりできるよう、協働学習の機会を多く設ける。また、タブレットの動画撮影機能の活用だけでなく、ポイントやコツの動画や解説をタブレット上で共有し、それを用いて友達と話し合い、よりよい解決策を見い出せるようにする。

10 英語活動・外国語活動・外国語科

目指す児童像を基にした外国科等での育成したい資質・能力		
外国の言語や文化について体験的に理解を深め、コミュニケーション能力の基礎を身に付けさせる。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	・恥ずかしがらずに、楽しみながら外国語活動に取り組める児童が多い。 ・友達の話の聞いたり、自分の好きなことについて伝えるのは難しい。	・ALTとも連携しながら、友達と関わるチャンツやアクティビティを多く用いて、コミュニケーションを図る楽しさを味わえるようにしていく。
中	・歌やチャンツ全般は、繰り返し行うことで、楽しいという実感をもって取り組んでる児童が多い。 ・コミュニケーションでは、伝えたいという思いはあるものの、表現の仕方に戸惑う児童が多い。 ・教師やALTが話す英語をジェスチャーや教材教具で大体の意味を理解している児童が多い。	・ALTとの連携の中で、アクティビティを増やして楽しみながら単語を覚える。 ・他教科との学習内容と関連付けた児童の好奇心に沿った言語活動を設定したり、既知の内容と関連付けて意味を予測したりできるように、計画的に進めていく。 ・一つ一つの単語の意味が分からずともICTやジェスチャー、教材教具を使って大体の意味が児童に伝わり、楽しさを味わえるようにしていく。
高	・友達とのやり取りの中で聞いたり話したり、また発表でより多く話したりすることに積極的に取り組む児童が多い。 ・書くことについては個人差が大きく、苦手意識をもつ児童が多い。 ・ALTなどの話す英語の意味を理解できず、会話を聞くだけで自分ではできないと苦手意識をもつ児童がいる。	・やりとりに関して、より積極的に取り組めるよう、構成を工夫する。 ・書くことについて十分な時間を確保するとともに、単調な繰り返しの学習にならないよう、何らかの書く目的をもたせたり、ゲーム的要素を取り入れたりするなど、児童の学習意欲を高める工夫をする。 ・会話を区切り、日本語でフォローを入ることや、理解をしている児童に見本になってもらうなどただ児童が聞くだけの時間を減らしていく。

I 1 特別の教科 道徳

目指す児童像を基にした道徳科での育成したい資質・能力		
道徳的価値をふまえて、物事を多面的・多角的に捉え、自己を深く見つめることができる資質・能力の育成。		
学年	現在の状況	改善のための取組
低	自分の気持ちを優先してしまい、相手の立場になって考えづらいことがある。	役割演技を通して、相手の立場に立ち、相手の立場を経験することで、気持ちを体感させる。また、相手の気持ちを言語化する活動を積極的に取り入れる。
中	自分の意見を認めてもらいたいという思いが強くなり、他者の考えを受け入れる柔軟さがもてないことがある。	意見の対立がある題材を取り上げ、違う考えの良さを認めたり、考えたりする場面を増やす。
高	自我の芽生えによって、理想と現実の葛藤に悩む姿がある。将来や社会との関わりを考える意識はあるが、実生活にどうつなげるかが弱い。	道徳的ジレンマ教材を使い、正解が一つではない問いと向き合い、物事を多面的に捉えられるようにしたり、その際に自分だったらどうするかを考え、選択・判断できるようにする。

I 2 総合的な学習の時間

目指す児童像を基にした総合的な学習の時間での育成したい資質・能力		
現代社会の現状や身近な事柄から課題の設定し、ゴール（目的）を意識して課題解決の能力を育成する。様々な年齢、立場の人と交流することで、相手のことを考え、自分も相手も大切に作る児童を育成する。		
学年	現在の状況	改善のための取組
中	自ら課題を見付け、課題解決することが難しい場合がある。	課題になり得る例示を出し、選択させるなど学びやすい環境をつくる。
高	課題を設定し、情報を収集することは児童自ら進んで活動できるが、集めた情報の中から、よりよいものを選んだり、よりよいものを考え出したりすることや、分類・整理することが難しい場合がある。	情報を整理・分析する活動には、様々な方法があることを例示し、自ら選択できる引き出しを増やしていく。 タブレットで得られる情報だけでなく、実際に校外の人と交流する中で情報が得られるよう、場を意図的に設定する。

I 3 特別活動

目指す児童像を基にした特別活動での育成したい資質・能力		
望ましい集団生活を通して、心身の調和のとれた発達と個性の伸長を図るとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的・実践的な態度を育てる。		
学年	実態	具体的な取組
低	1、2年生の交流活動を楽しみ、1年生は未来の自分をイメージし、2年生は、自分たちがこれまでしてもらってきたことを1年生にしてあげようとする。	1、2年生の交流活動を常時行える環境作りや、集会を定期的に行い役割を果たしていく機会を設ける。また、適切に振り返りを行わせ自己の成長を実感できるようにする。

	る姿が多く見られる。自分の役割を意識して、創造的に役割を果たしていくことはまだ難しい。	
中	学級内や学年での交流を楽しみ、多くは主体的に自分の役割を果たそうとするが、役割が理解できない児童や、主体的に取り組めない児童もいる。友だちとの関わりも広がってきているため、トラブルが起きることも増えている。	集団活動の中での自分の役割が明確になるよう、めあての掲示や役割カードなどを作成し、個々の役割を明示する。友だちとの関わりも定期的に確認し、関わり方のよい児童を紹介したり、よい関わり方を知らせたりする。活動後は、協力できた点についてもふり返らせる。
高	高学年としての自覚をもち、学校をよりよくしていこうと積極的に活動する児童と、消極的な児童がいる。また、周囲の目を気にして発言を控えるなど、新しい考えが生まれにくい状況にある。	様々な行事や活動の中で、リーダーを固定せず、様々な児童にリーダーを経験させ、一人一人が責任をもって取り組むことができるようにしていく。少人数で話し合う場面を設けるなどして誰もが安心して意見を出し合ったりできるような仕組み作りに努める。

I 4 交流及び共同学習の進捗状況

学年	現在の状況	改善のための取組
低	・校外学習及びゲストティーチャーを招いての出張授業に都度参加している。	・学年相応段階の各教科の内容についても都度ふれさせていきたい反面、児童の段階が指導内容とそぐわない状況もある。実態を基にしたスモールステップでの指導を継続して行い、児童自身が自分でできることを増やしていきたい。
中	・校外学習及びゲストティーチャーを招いての出張授業に都度参加している。 ・各教科の授業においては、個別の指導計画に基にし、複数名が参加をしている。	・各教科の交流学习については当日の参加に留めず、児童の実態を基に必要なに応じて事前事後学習を丁寧に行うことで児童の学びにつなげていきたい。 ・通常学級の授業に参加することについて、保護者、本人との相談を密にし、また通常級担任とも連携し、よりよい交流及び共同学習にできるようにする。
高	・高学年であることを自覚して他学年の手本になろうと主体的に行動する児童と、自身の活動で精一杯の児童がいる。学年を越えた友だちとの関わりは広がってきているため、トラブルが起きることも増えている。 ・6年生が全員移動教室に参加した。5年生は3名が2学期に参加予定。	・これまで行ってきた交流及び共同学習の成果が実り、通常の学級と友好的な関係を築くことができている。運動会での交流などは合理的配慮の視点から、たけのこ学級の児童も通常学級の児童も気持ちよく参加できるように、教員が打ち合わせを行いながら指導にあたっていく。 ・各教科の交流学习については、他学年と同様に取り組んでいく。